

科目担当者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) なるかわけい ちろう 生川 慶一郎	印		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) もり たかとも 森 隆知	印	立命館大学 政策科学部 政策科学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
地域デザイン調査 (Bクラス)	RMKd-150902-2	66 名	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：調査テーマによるグループ分けを行い、調査フレームを5つ（①調査計画の立案および実施、②分析・評価、③将来像を構想する、④空間をデザインする、⑤運営ルールをつくる）に分けて、それぞれのフレームで一度、個人ワークの提出とグループ単位の小発表、最終講義ではこれまでの作業成果のまとめ発表した。学生は、いずれの過程においても主体的な役割を持ち、グループワークとして積極的な議論を行い、具体的な提案につなげるなど課題の質的向上に努めていた。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：大学キャンパス及び大学周辺で抱える地域課題を挙げ、その問題解決を実現する建築環境デザイン/建築計画

2. 調査の内容/概要：校内のリザーブスペース・未利用空間の有効活用、授業時間外の学習スペースの提案、オープンスペースにおける人が集う・憩いの居場所づくり、食堂およびコンビニなどの学内施設の改善、学校周辺の自動車・自転車・歩行者などの交通のあり方

3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：大学キャンパス内および大学周辺地域（主に徒歩圏内）/キャンパス内の学生および施設管理者をはじめ調査目的・対象に応じた関係施設

4. 主な調査項目：授業時間外のコモンスペース、昼休み時間帯の学内食堂、オープンスペース等の利用実態および評価、大学周辺の道路の安全性等

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：定量調査は学生自らが直接現地に赴き実施した。大学キャンパス内の施設および大学周辺の関係施設に関する定性調査についても、学生が調査票を持参し、聞き取り調査（自記式で回答）を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2015年10月～2015年12月・大学キャンパス内および大学周辺地域・調査に参加したのは全学生66名

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：写真撮影による実態調査に加え、街頭アンケート調査が中心となっている。アンケート調査については調査目的、調査対象の状況に併せて、調査時間として適切な時間帯に実施し、統計処理を行うことからできる限り有効回答数を増やす努力を行った。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：観察調査は、写真撮影を中心に行い、課題ごとに問題点を整理し、具体的な提案を行った。利用者数など数量的分析が可能な調査項目は、単純集計を中心に行い、具体的な関心事に関しては一部クロス集計も行った。ヒアリング調査は、調査目的に適した関係当事者に直接行うことで、実態に即した意見の収集ができた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：当科目は問題の発見から事実の分析、提案の提示にまで至る地域デザインに関する一通りの調査過程を経験させる科目であった。調査の正確性と解決案の新規性を両立することができる学生は少なかったが、概して、前者の正確な調査活動の習得は十分であったため、この点を今後も強化していく。

10. 報告書刊行の予定と概要：報告書の刊行予定は特になし。